

蟹江町歴史民俗資料館 おうちミュージアム

しんでんかいはいつ
第16回 新田開発と蟹江町



(この絵は約250年前(宝暦11年)^{ほうれき}につくられた地図を大きくしたものです。)

今回のおうちミュージアムでは、^{しんでんかいはいつ}新田開発^{しょうかい}について紹介します。

① 新田ってなに？

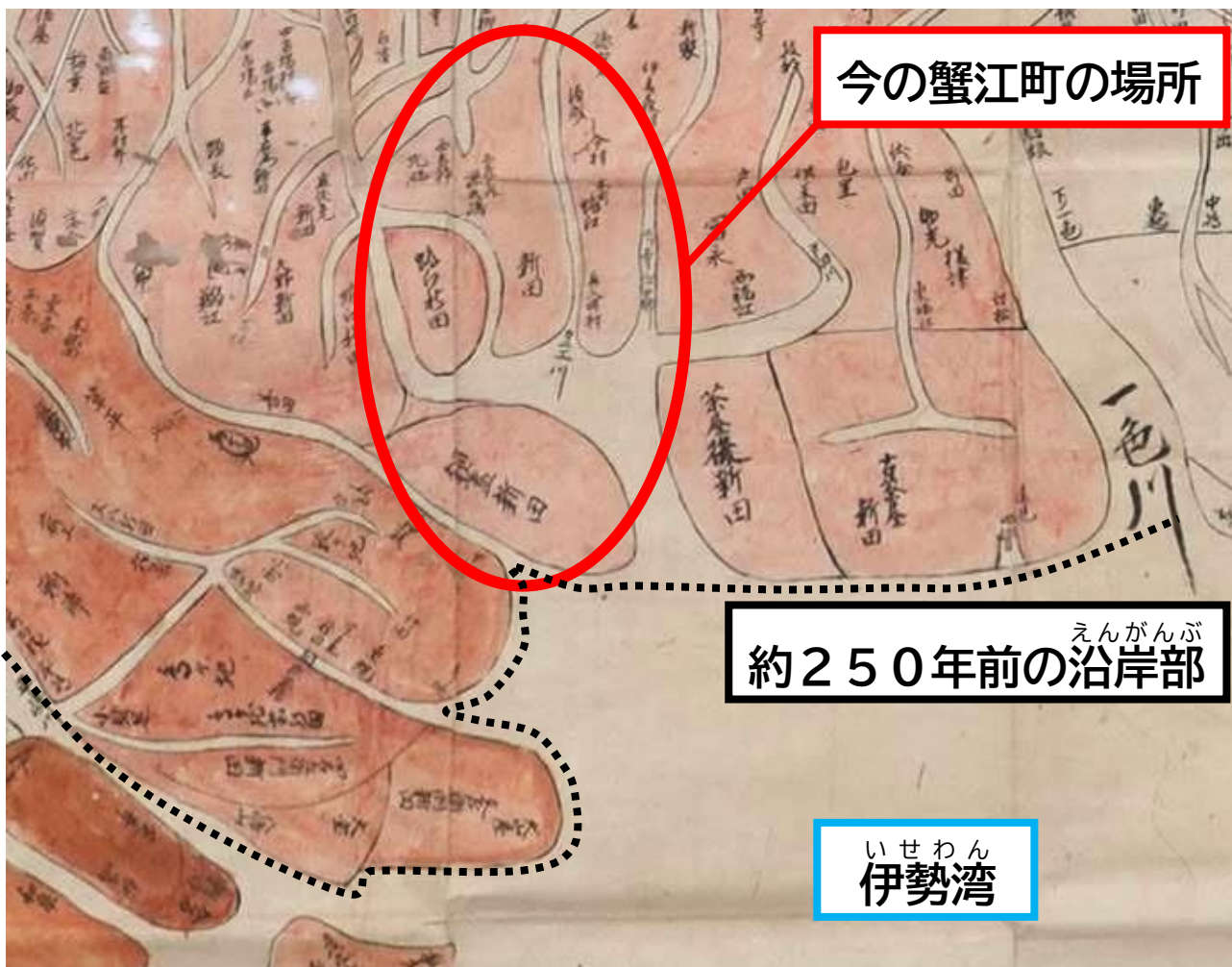
蟹江町には「〇〇新田」という地名がいくつかあります。新田とは、山や池、川などを新しく田んぼにした場所のことです。このように新田をつくることを、新田開発といいます。

新田開発がさかんにおこなわれるようになったのは、今からおよそ400年前の江戸時代のはじめごろです。これには、大きく2つの理由があります。

1つ目は、田んぼをつくることでお米もたくさんとれるようになり、豊かになると考えられたからです。

2つ目は、戦国時代にお城などをつくっていた技術をいかして、川や水路などの整備ができるようになったからです。

蟹江町では、はじめは沼地などを埋め立てて新田開発をしていたと考えられ、そのような場所がなくなると、今度は伊勢湾の沿岸部で新田開発をするようになりました。



② 干拓による新田開発

伊勢湾の沿岸部は浅い海が広がっていたため、干拓による新田開発が行われました。干拓とは、海の一部を堤防で囲んで、新しい土地をつくる方法です。堤防が完成したら、潮が満ちてくる前に水門を閉じることで、堤防の中まで海水が入らないようにしました。

【干拓の方法】

① 潮が引いているときに、堤防をつくる。

(引き潮)

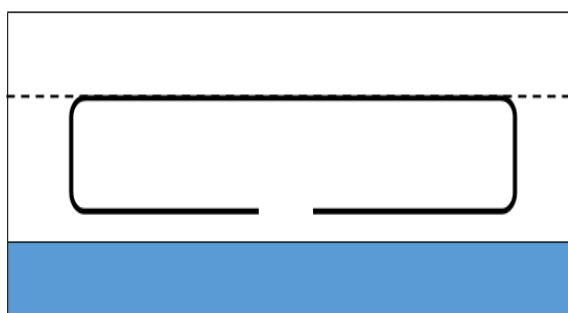


(満ち潮)

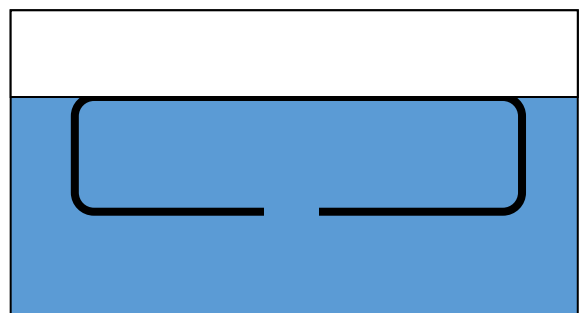


② 堤防が完成するまで、①をくり返す。

(引き潮)

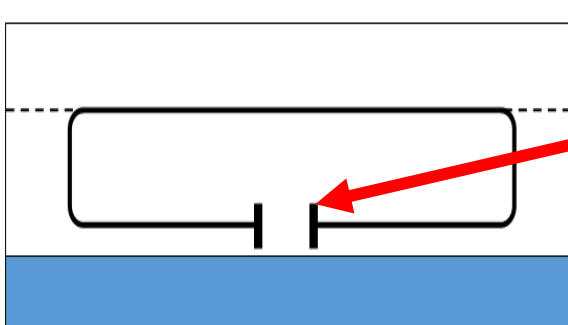


(満ち潮)

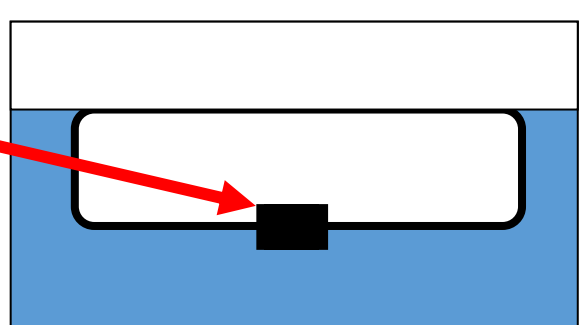


③ 堤防が完成したら、潮が満ちてくる前に水門を閉じる。

(引き潮)



(満ち潮)



③ 干拓のメリットとデメリット

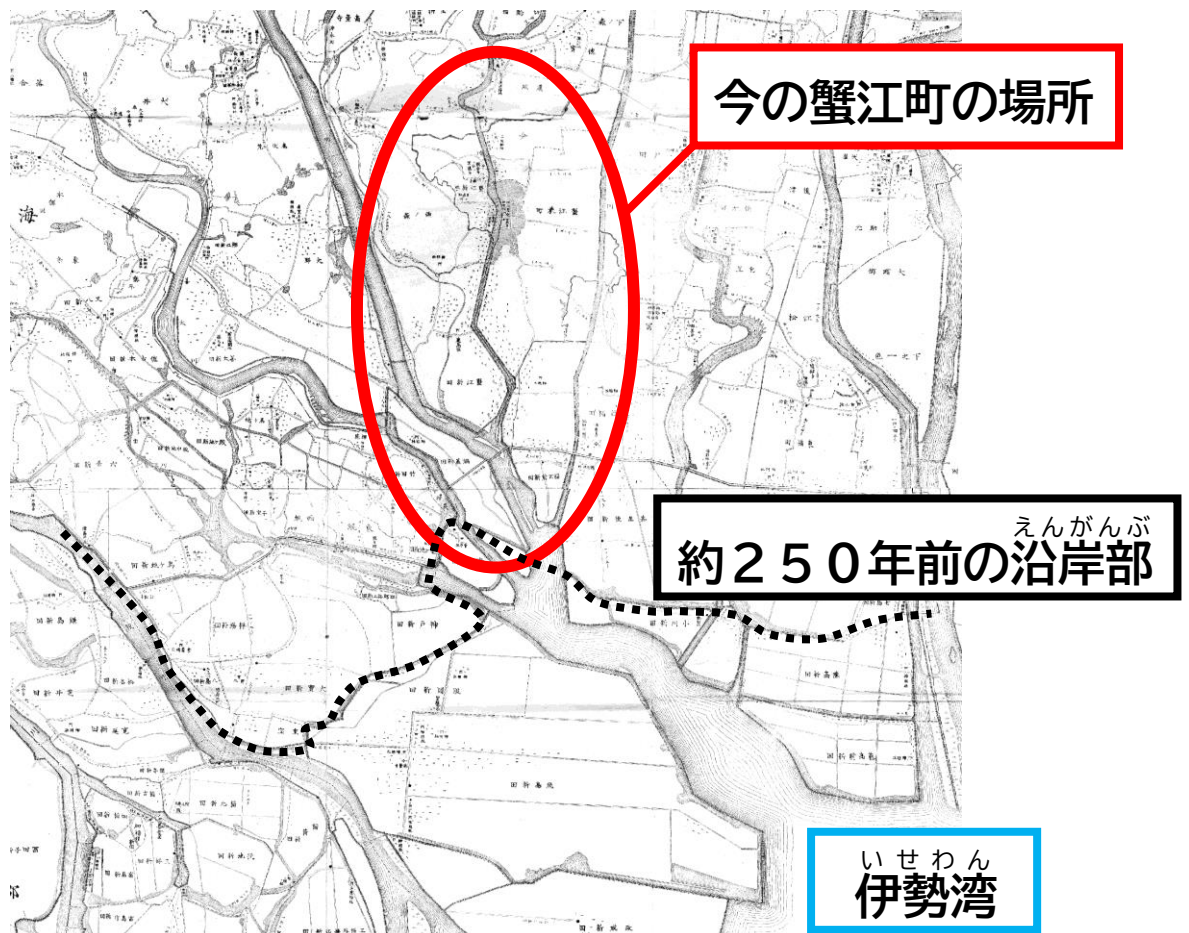
干拓は、海を埋め立てることに比べると、必要なお金や労力が少なくて済むというメリットがありました。

その一方で、干拓によってつくられた新田は、元々は海の中だったため、大雨などの被害を受けやすく、もし台風などで堤防が切れてしまったときは、家や田んぼが海に沈んでしまうデメリットがありました。

④ 海部地域での新田開発

蟹江町を含む海部地域では、江戸時代に多くの方が新田開発をおこないました。新田開発は失敗することも少なくありませんでしたが、成功したときはたくさん利益を得ることができたからです。

干拓によってつくられた新田の外側には、さらに別の新田がつくられていき、海部地域の南部には新田地帯が広がることになったのです。



(この絵は約140年前(明治22年)につくられた地図を大きくしたものです。)